

外為マンスリーレビュー

2018/08/02

Brexit交渉と米中貿易戦争が焦点に

通貨ペア	基調		ページ数
ポンド/円	↓	BOEとBrexitが2大テーマ 予想レンジ: 142.000~150.000円	2-3
豪ドル/円	↓	8月の豪ドル安アノマリー 予想レンジ: 79.500~84.500円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



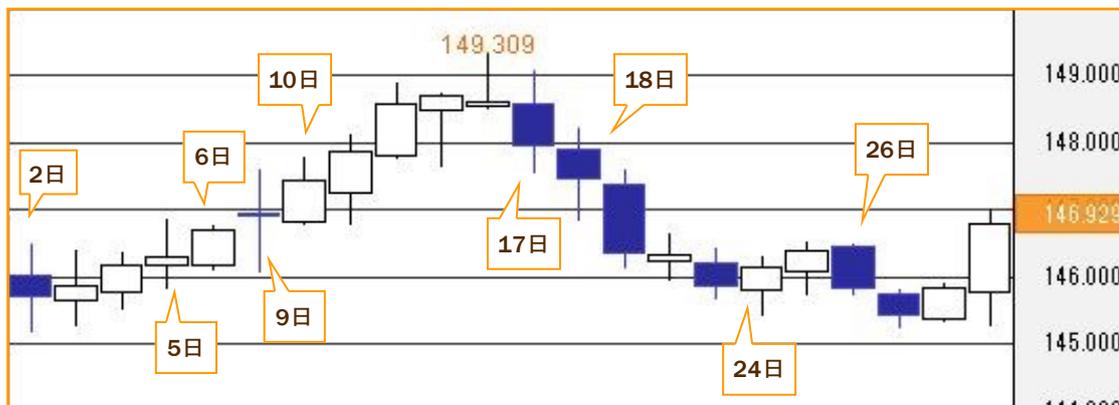
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018Gaitame.comResearchInstituteLtd.AllRightsReserved.www.gaitamesk.com

ポンド/円 7月の推移

GBP/JPY

7月のポンド/円相場は145.190~149.309レンジで推移。月間の終値ベースでは約0.4%の小幅な上昇(ポンド高・円安)となった。前半は上昇、後半は下落と、約2カ月ぶりの高値を付けた16日を境に流れがはっきりと変わった。前半の上昇は、英中銀(BOE)の利上げに対する期待が広がったほか、ドル/円の上昇に支えられた面もある。後半の下落は英国の欧州連合(EU)離脱=Brexitをめぐる不透明感が高まった事が大きかった。月足をなんとか陽線で終えられたのは、31日に日銀が大規模金融緩和の長期化を示唆した事による円安進行のおかげであった。



四本値

OPEN	146.043
HIGH	149.309
LOW	145.190
CLOSE	146.809

2日	英6月製造業PMIが54.4と市場予想(54.0)を上回ると、一時ポンド買いが優勢となったが、上海株の下げの影響などから欧州株が軟調に推移する中、ポンド/円は失速した。
5日	カーニーBOE総裁が講演で「さらなる金融政策の引き締めが必要」「英経済は5月の予想通りに成長している」などと発言したことを受けて一時ポンドが強含んだ。しかしその後「無秩序なBrexitは英経済の負担になる」と懸念を示したことで伸び悩んだ。
6日	英国のメイ首相は、Brexitの方針をめぐる対立していた閣僚らを説得。「モノの自由貿易圏」の創設をEU側に求め、貿易面での緊密なつながりを維持するという「穏健な離脱(Soft Brexit)」の方針に合意を取り付けた。この報道が伝わると、ポンド買いが強まった。
9日	英EU離脱担当相のデービス氏が、メイ英首相が示した「Soft Brexit」の方針に反発する形で辞任。その後、ジョンソン英外相も辞任も発表。メイ政権崩壊への懸念が広がりポンド売りが強まった。
10日	英5月貿易収支は123.62億ポンドの赤字となり、赤字額は予想(120.00億ポンド)をやや上回った。また、英5月鉱工業生産は前月比-0.4%と、予想(+0.5%)に反して減少。鉱工業生産は前年比でも+0.8%にとどまり、市場予想(+1.9%)に届かなかった。
17日	英紙が「欧州委員会は、英国以外のEU加盟国に対し、EUとの合意が成立しないまま英国が離脱する事態への備えを強化するよう求める計画だ」と報じた事を受けて、一時ポンド売りが強まった。しかし、直後に英下院議会在、通商法修正案を否決するとポンドは急速に買い戻された。修正案は、2019年1月21日までにEUと自由貿易で合意できなかった場合に「関税同盟」について交渉する事を義務付ける内容であった。EU離脱後は「関税同盟」からも離脱する立場を表明しているメイ首相の面目が保たれたとの見方がポンドを支えた。
18日	英6月消費者物価指数は前月比±0.0%、前年比も+2.4%といずれも予想(+0.2%、+2.6%)を下回った。また、英6月生産者物価指数も前年比+3.1%と市場予想(+3.2%)を下回り、さらには英6月小売物価指数も前年比+3.4%と予想(+3.5%)に届かなかった。これらの発表を受けて、8月利上げに対する懐疑的な見方が広がりポンドが大幅に売り込まれた。
24日	メイ英首相が「自らがEUとの交渉を率い、EU離脱担当相は私の補佐としての役割を担う」と議会に通知した事が伝わると、Soft Brexit(穏健なEU離脱)への期待からポンドが上昇した。
26日	英国のメイ首相にEU離脱後の関税に関する提案をバルニエEU首席交渉官が拒否したことが伝わると、離脱協議を巡る先行き不透明感からポンドが下落した。

GBP/JPY

日経平均

FTSE100

英2年債利回り

英10年債利回り

OPEN	22233.80
HIGH	22949.32
LOW	21462.95
CLOSE	22553.72

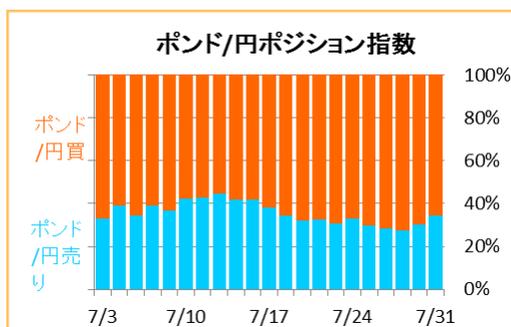
OPEN	7636.93
HIGH	7782.90
LOW	7540.71
CLOSE	7748.76

OPEN	0.718%
HIGH	0.794%
LOW	0.690%
CLOSE	0.772%

OPEN	1.269%
HIGH	1.360%
LOW	1.167%
CLOSE	1.330%

7月のポジション動向

8月の英国注目イベント



- ・7月英製造業PMI(1日)
- ・7月英建設業PMI(2日)
- ・BOE政策金利発表(2日)
- ・BOEインフレレポート(2日)
- ・カーニーBOE総裁、会見(2日)
- ・7月英サービス業PMI(3日)
- ・6月英鉱工業生産(10日)
- ・6月英貿易収支(10日)
- ・4-6月期英GDP・速報値(10日)
- ・7月英雇用統計(14日)
- ・7月英消費者物価指数(15日)
- ・7月英小売物価指数(15日)
- ・7月英生産者物価指数(15日)
- ・7月英小売売上高(16日)

8月の見通し

[経済指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

8月のポンド相場は、2日の英中銀(BOE)スーパーサズデーと、英国の欧州連合(EU)離脱=Brexit問題が2大テーマとなりそうだ。BOEスーパーサズデーについては、政策金利の引き上げ(0.50%から0.75%)が濃厚と見られており、市場も概ね織り込み済みだ。同時公表の議事録で示される利上げ票数(9人中何名が利上げに賛成したか)や、インフレレポートで示される経済・物価見通しから、年内の追加利上げの可能性を探る事になるだろう。もっとも、来年3月のBrexitを前に、BOEが追加利上げに前のめりになる可能性は低いと見られている。

英とEUによるBrexit交渉については、8月中旬にも次回会合が開催されるとの見方もある。いずれにしても10月の合意期限を前に、夏休み返上で交渉が続けられる事になるだろう。アイルランド(EU加盟国)と英領北アイルランドの国境管理問題および、離脱後の通商関係をめぐる方針について合意のメドが立っておらず、8月中に合意できる可能性は低い。このままでは来年3月のBrexitが「合意なき無秩序な離脱」となるリスクを意識せずにはいられなくなるだろう。

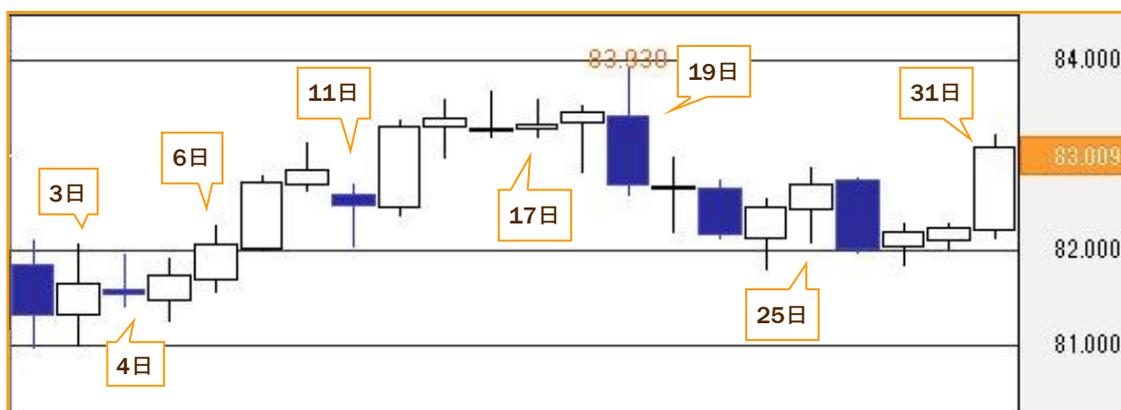
8月のポンド/円相場は、上値が重い展開が予想される。(神田)

(予想レンジ: 142.000-150.000円)

豪ドル/円 7月の推移

AUD / JPY

7月の豪ドル/円相場は80.987～83.930円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.3%の上昇(豪ドル高・円安)となった。ドル/円の上昇につれた面もあったが、米中貿易戦争への懸念がくすぶり続ける中であって、豪ドルは対米ドルでも小幅ながら上昇しており、「意外高」の展開であった。もっとも、豪ドル/円は3月から続くもみ合い相場のレンジである80.50円前後～84.50円前後の中での値動きにとどまっている。特別な買い材料が確認できない中での7月の上昇は、6月の小幅安の反動と考えるべきかもしれない。



四本値

OPEN	81.856
HIGH	83.930
LOW	80.987
CLOSE	83.104

3日	豪中銀(RBA)は予想どおりに政策金利(1.50%)の据え置きを発表。声明では「政策スタンスを変更しないことが経済の持続可能な成長と、時間をかけてインフレ目標を達成することに一致すると判断」などと従来どおりの見解を披露。豪ドル相場の水準については「少し下落したが、過去2年間にわたる範囲内にとどまっている」とした。また、インフレについても「人件費の低成長と小売競争の激化を反映して、しばらくの間低水準での推移が続く」との見通しを維持した。
4日	豪5月小売売上高は、前月比+0.4%と予想(+0.3%)を上回った。一方、豪5月貿易収支は8.27億豪ドルの黒字となり、黒字額は予想(12.00億豪ドル)に届かなかった。
6日	米東部時間24時01分(日本時間13時01分)をもって、米国の対中関税第1弾(340億ドルの中国製品輸入に25%の関税を賦課)が発動された。中国も報復関税を発動したが、いずれも織り込み済みとの見方から市場の反応は限られた。
11日	「米当局が2000億ドル相当の対中関税リストを公表の方向」との報道が伝わると、米中貿易戦争が激化懸念が高まった。なおその後、米通商代表部(USTR)は、6031品目の中国製品リストを公表し、10%の追加関税を課す方針を示した。また、2カ月間の意見公募期間を設けた上で、「米国は中国と交渉する用意がある」と発表した。これに対して中国商務省は「新たな米関税に報復せざるを得ないだろう」「米国をWTOに提訴する」との見解を示した。豪ドル/円は、これらを受けて下落していたが、ドルが全面高となる中、ドル/円が上昇した動きにつれて豪ドル/円も持ち直した。
17日	RBAが7月理事会の議事録を公表。「短期的に金融政策を調整する強い証拠はない」「経済が予想通り改善すれば、次の行動は利上げ」「しばらく金利を据え置くことが適切」「豪ドルは下落したが、依然として過去2年間のレンジ」などとする見解が示されたが新味に乏しく豪ドルの反応は限られた。
19日	豪6月雇用統計は、新規雇用者数が5.09万人増となり市場予想(1.65万人増)を大幅に上回った。内訳では正規雇用者が4.12万人増と大幅に増えていた事も判明。失業率は前月と同じ5.4%で、予想どおりの結果であったが、労働参加率が65.7%と前月から0.2ポイント上昇する中での失業率の横ばいは好結果と受け止められた。これを受けて、一時豪ドル買いが強まったが、その後は中国人民元の下落が重しとなり、豪ドルも下落に転じた。
25日	豪4-6月期消費者物価指数は前年比+2.1%となり、前期(+1.9%)から加速したが、市場予想(+2.2%)には届かなかった。なお、RBAが重視する基調インフレは予想どおりに前年比+1.9%となり、RBAのインフレ目標(2-3%)の下限を下回った。
31日	日銀が「強力な金融緩和継続のための枠組み強化」を発表して市場にくすぶっていた金融緩和からの出口観測を否定すると円安が進行。また、「米国と中国は全面的な貿易戦争の回避を目指し、交渉再開を模索している」とする関係者の発言が伝わると、リスク選好の動きが強まり、豪ドル高・円安に弾みが付いた。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	22233.80
HIGH	22949.32
LOW	21462.95
CLOSE	22553.72

NYダウ平均

OPEN	24161.53
HIGH	25587.24
LOW	24077.56
CLOSE	25415.19

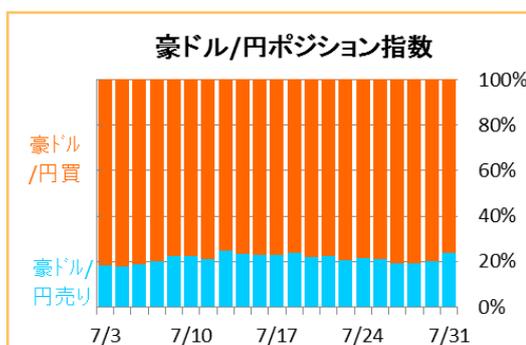
上海総合指数

OPEN	2841.580
HIGH	2915.297
LOW	2691.021
CLOSE	2876.401

豪10年債利回り

OPEN	2.627%
HIGH	2.728%
LOW	2.574%
CLOSE	2.647%

7月のポジション動向



8月の豪州・中国注目イベント

- ・ 7月中国財新製造業PMI (1日)
- ・ 6月豪貿易収支 (2日)
- ・ 6月豪小売売上高 (3日)
- ・ 7月中国外貨準備高 (7日)
- ・ RBA政策金利発表 (7日)
- ・ 6月豪住宅ローン件数 (8日)
- ・ 7月中国貿易収支 (8日)
- ・ 7月中国消費者物価指数 (9日)
- ・ 7月中国鉱工業生産 (14日)
- ・ 4-6月期豪賃金指数 (15日)
- ・ 7月豪雇用統計 (16日)
- ・ RBA議事録 (21日)
- ・ 7月豪住宅建設許可件数 (30日)
- ・ 8月中国製造業PMI (31日)

8月の見通し

経済指標カレンダー(外部リンク)

豪ドル/円相場は8月に下落しやすいというアノマリー的な性質がある。過去10年間(2008~2017年)を振り返ると、豪ドル/円が8月に上昇した年は2014年と2016年の2回しかない。過去10年間の8月の豪ドル/円相場は、下落確率が8割という事になる。なお、同じ期間のドル/円は上昇6回、下落4回であり、下落確率は4割であった。明確な理由は見付けられないが、2011年の米国債格下げショックや2015年のチャイナショックなど、8月には経済的ショックが起きやすい傾向が見て取れる。今年については、米中貿易戦争の激化に注意が必要という事になるのかもしれない。特に大きなショックがない場合でも、北半球の夏季休暇シーズンで積極的な取引が手控えられがちのため、豪ドル/円が上値を伸ばす展開にはなりにくいだろう。なお、豪中銀(RBA)は、7日の理事会でもインフレの伸びが緩慢な事などから引き続き中立スタンスを維持すると見られる。金融政策が豪ドル相場のテーマになりにくい地合いも続く公算が大きい。(神田)

(予想レンジ: 79.500~84.500円)